

式辞(令和4年度卒業式)

ただいま卒業証書を授与した164名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業おめでとうございます。

思い返せば、3年前の入学式はグラウンドで行い、翌日から休校に入るという異例のスタートでした。新しい友達との出会いも2か月遅れ、世の中全体が先の見えない不安な空気だったことが昨日のことに思い出されます。新型コロナウイルスの出現により、世界は大きく変わり、行動が制限され、人と接しない生活が求められ、何から何まで息苦しい世の中になってしまいました。しかし、その戦いも終盤を迎え、日常に戻りつつあります。この3年間で、コロナウイルスに感染し亡くなられた方も多く、未だに後遺症で苦しんでいる人もいますので、手放しでは喜べませんが、明るい兆しになってきました。

また、ロシアのウクライナ侵攻により、世界の平和のバランスが崩れました。日本においても、防衛力増強が話題の中心になるようなきな臭い匂いが漂ってきて、戦後といっている時代が懐かしくもなっています。皆さんの過ごした3年間は、そんな激動の時代でした。

しかし、そんな時代にもかかわらず、皆さんは、今を一生懸命に生きていました。高校生の持つエネルギーに変化は無く、マスク越しにも元気が溢れていました。日常のやりとりが微笑ましく、ささいなことで悩んでいる姿が、学校内の至る所であり、今までと変わらない風景に目頭を熱くしたものです。

ここで、皆さんの卒業文集の中にある一節を紹介します。

【正直入学したばかりの頃は、こんなに行事が少ないなら早く卒業したいとコロナに対しての不安からそんな考えになってしまったこともありました。ですが、今となれば、それ以上の楽しさで溢れていた三年間だった、と思います。私自身、コロナによって気付かされたことがあります。それは当たり前の大切さです。当たり前のように登校し、授業を受け、休み時間には友達と他愛もない会話をする。そんな当たり前の日常がどれだけ幸せなのかを気付かせてくれました。】

皆さんの卒業文集は、周りへの感謝・日常への感謝の気持ちで溢れていました。コロナによって分断されてしまった人と人との関わりでしたが、皆さんの心の中に、他者を思いやり、他者の立場を想像する力が確実に育っていたことを本当に嬉しく思いました。このコロナ禍の3年間で決して無駄では無かったことの証になります。「人生に無駄な事は1つも無い」と言われますが、本当にその通りでした。

そんな皆さんの卒業に当たり、この3年間のコロナ期間を無駄にしないように感じたことを2つお伝えし、お別れの言葉にしたいと思います。

1つ目は、「目の前の人は鏡に写った自分である」

「目の前の人は鏡に写った自分である」、ということです。

この卒業式からマスクの使用は個人の判断に委ねられました。コミュニケーションにおいて、当たり前のことですが、怒った顔で接すれば、相手も怒る。悲しい顔をすれば、悲しい顔をする。笑顔で接することが出来れば、相手も笑顔になる。マスク越しの3年間だと、その認知能力に磨きが掛けられなかったかもしれません。コロナ後遺症が抜けるまで、相手の表情を読むまでに少し時間が掛かると思いますが、「目の前の人は鏡に写った自分である」を意識して他者と接してもらいたいと思います。

そして、目の前の人を笑顔に出来る人になって欲しい。そんな人生を歩んでもらいたいと思います。

2つ目は、「心は熱く、頭は冷静に」です。

私自身も、目の前に何か困難なことが現れると考える言葉です。

このコロナ騒動も、当初は、すぐにウイルスの正体を突き止め、ワクチン・薬が発明され、うがい・手洗い・マスクと、予防を心掛けていれば、収束に向かうだろうと考えていました。しかし、未だにウイルスと戦い続けていますから、このウイルスとの闘いは、免疫力を上げる以外に勝つ方法は無かったのでしょう。そして、コロナに負けない強い心を作る必要があったのでしょう。

また一方、私たちは、コロナ禍により様々な情報に踊らされました。今でも、踊らされています。それを冷静に見抜くのは難しいことも分かりました。

結局、自分にコントロール出来ないことで悩むよりも、目の前の問題を一つ一つ解決していくしかなかったと思います。そういう意味では、皆さんは、他の世代の人たちより、世の中の答えは1つでは無いことを、身をもって経験し、大人の矛盾した行動を冷静に見ていた世代であったともいえます。

つまり、「心は熱く、頭は冷静に」を体感した皆さんでした。

それが、コロナ禍で学んだ一番の学習であった、とも思います。

「心は熱く、頭は冷静に」、分かっている出来ないのも人間です。コントロール出来ない他人の心に一喜一憂するのでは無く、時には、非科学的なものに頼り、心を軽くするという古くからの教えも学びました。突如登場したアマビエ様を守護妖怪として頼っていたことも良い思い出です。今では役目を終えたような顔になり、ひっそりとたたずんでいます、皆さんの心をスッと軽くしてくれる効果はあったと思います。

さあ、卒業です。

北陵高校での思い出を胸に、これから始まる人生を楽しんでください。

心を燃やしてください。どんな困難も目の前の問題から逃げずにコツコツ解決してください。

そして、ちょっと疲れた時には思い出してください。

「皆さんが入学した、あの休校中に、あのアマビエが生まれたということを」

結びになりますが、ご列席いただきました保護者の皆さま方、大切なお子さまをお預かりしてから、あっという間に三年が過ぎました。コロナに翻弄される学校でしたが、お子様たちは立派に成長しました。やりた

いことを制限されてばかりでしたが、逆に、どうすれば楽しめるのかを考えた 3 年間になりました。

本校としても、日に日に状況が変化する中で、教育を止めずに、常に最善の判断をしてきたつもりです。そんな中でも、担任を中心に保護者の皆様と協力しながら、子どもたちの成長に大きなお手伝いが出来たのでは考えております。時には連絡不行き届きのところもあり、ご不満を感じられたこともあったかと存じますが、常に本校の教育に対して温かいご理解とご支援を賜りましたことに、教職員を代表して、心より御礼申し上げ、式辞と致します。

ご卒業、本当におめでとうございます。

令和五年三月三日

茂原北陵高等学校

校長 永野 卓